

# 企業の社会的責任

当社は、企業の社会的責任の重要性を認識し、以下のような考え方で企業倫理の高揚と、コンプライアンス体制を整えるべく取り組みを行っています。

## 当社のコンプライアンスに対する取り組み

### 【基本方針】

企業は、公正な競争を通じて利潤を追求するという経済的主体であると同時に、広く社会にとって有用な存在であることが求められています。

また製薬企業は、優れた医薬品を開発・供給することにより、世界の人々の健康と福祉に貢献する価値ある存在でなければなりません。

そして製薬企業の一員として当社は、『生命を慈しむ心を貫き、人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します。』という企業理念の下、国の内外を問わず、人権を尊重するとともに、すべての法令、行動規範およびその精神を遵守し、高い倫理観をもって行動します。

### 【取り組み】

高い倫理観をもって企業行動を展開するために、「キョーリン企業行動憲章」と「キョーリン・コンプライアンス・ガイドライン」を制定するとともに、コンプライアンス委員会を設置しています。

- (1) 「キョーリン企業行動憲章」は、企業理念に基づき企業倫理およびコンプライアンスの具現化に向けて制定されたもので、当社の企業行動の原点となるものです。
- (2) 「キョーリン・コンプライアンス・ガイドライン」は、「キョーリン企業行動憲章」を補完するものであり、健全かつ正当な事業活動を行うための基準を明確化したものです。
- (3) 企業倫理およびコンプライアンス体制を総括管理するため、2004年12月よりコンプライアンス委員会を設置しました。  
また、各拠点にコンプライアンス推進担当者を置くことにより、企業倫理およびコンプライアンスの理解・浸透を図っています。

### 【教育研修】

企業倫理およびコンプライアンスの理解・浸透を図るべく、社内教育を行っています。

- (1) コンプライアンス担当部署が中心となって、全社的な階層別教育（ex. 新入社員教育、新任管理者研修等）において、企業倫理およびコンプライアンスに関する教育研修を実施するとともに、当社の役員および従業員に対する啓蒙活動を展開する。
- (2) 各部門で実施する職能教育等において、企業倫理およびコンプライアンスに関する内容を盛り込み、従業員の理解・浸透と業務への反映を図る。

## 当社のリスク管理に対する取り組み

### 【基本方針】

リスク発生の予防に係る管理体制の整備及び発生したリスクに適切に対応し、会社に与える損害を最小にすべく、リスク管理を推進します。

### 【取り組み】

リスクの発生予防に係る管理体制の整備、発生したリスクへ対応するため「リスク管理委員会」を設置いたしました。同委員会の役割は以下のとおりです。

- (1) 潜在リスクを把握するため、関係各部に対しリスクの調査を指示する。
- (2) 潜在リスクが顕在化しないように、関係各部に対し各種規則・業務マニュアル類の整備、従業員への教育・啓蒙等必要な予防措置をとらせる。
- (3) やむなく発生したリスクによる損害を最小にするため、関係各部に対しリスク発生時対応マニュアルの整備、対応訓練（シミュレーション）の実施、保険への加入等必要な措置をとらせる。

### 【教育研修】

各事業所にリスク管理推進担当者を配置し、リスクに対する意識の向上と浸透を図っています。

## 社会とのコミュニケーション

### 観桜会

創薬研究所では毎年、樹齢40年を超える桜を見る会を実施しており、今年も多数の方が訪れました。これを機会に当社の環境・労働安全衛生の取り組みを説明させていただきました。



### 地域産業祭への参加

工場、研究事業所では、地域の産業祭に参加し、当社についてのご理解をいただいております。



開発研究所では毎年地元野木町の産業祭に参加し、杏林製薬のPRと共に、子供達とゲームで一時を過ごしました。



能代工場では能代産業フェアに2007年度より参加し、毎年多数の方々のご来場で大盛況となりました。

### 納涼祭

開発研究所および各工場では、毎年納涼祭に周辺住民の皆様をお招きし、当社への理解を深めていただく機会として好評を頂いております。



開発研究所



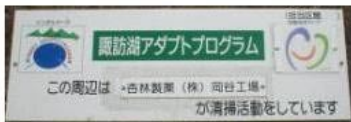
能代工場



岡谷工場

地域清掃活動

岡谷工場では、諏訪湖畔の一定区間を受持ち美化活動を行なう諏訪湖アダプトプログラム（里親制度）を実施し、活動も8年が経過しました。また、社員一斉参加により湖畔公園の清掃も引き続き実施しました。



能代工場では、郷土の防風林として、また憩いの場所として市民に親しまれている“風の松原”の清掃ボランティア活動に参加しています。



開発研究所では、会社周辺及び渡良瀬遊水地内の清掃活動を実施しました。



本社がある御茶ノ水では、年2回千代田区の一斉清掃があり、有志従業員が自主的に参加しています。

その他の活動

開発研究所では、2009年度の観桜会を実施した際、セルフ花（障害者施設）からのパン販売もあわせて実施いたしました。

営業所の中には、ケアハウスが企画した納涼会にボランティアとして参加したところもあります。

介護者に支援者が付き添い、納涼会を一緒に楽しむことができました。



● 小冊子：「ドクターサロン」配布

ラジオ NIKKEI (たんぱ) で放送している医師向けの番組「ドクターサロン」を冊子にして、当社MRが定期訪問している医師に毎月配布しています。取り上げるテーマは幅広い領域の疾患に関するもので、タイムリーな話題を数多く取り上げており、プライマリケアを中心とした先生方に大変ご好評をいただいております。



● スポーツイベントの支援



当社は人々の健康を促す数々のスポーツイベントに協賛しています。特に、子供たちが心身ともに健康に育つよう、応援しています。

毎年恒例の「しもつけサッカーセミナー in 野木」は、好評のうちに10年目となりました。今年もたくさんの応募をいただき、指導は今回もTVや雑誌、新聞でお馴染みのスポーツジャーナリスト中西哲生氏にお願いしました。絶妙なトークと優れた指導で、子供たちを魅了しました。

● キョーリンスマイルプログラム

当社は、2007年度よりコーポレートブランド活動の一環として、「笑顔のある社会」の実現を目指して、全社員一丸で具体的な活動を行うことになりました。活動をキョーリンスマイルプログラムと名づけ、「健康はキョーリンの願いです」をテーマに、各職場で様々な取り組みを展開しています。

<主な取り組み>

- ・募金活動 (ユニセフへ寄付)
- ・使用済み切手収集 (ジョイセフへ寄贈)
- ・ペットボトルキャップ収集 (途上国へワクチンを送る)
- ・買い物時にエコバッグ使用
- ・事業所地域周辺の清掃活動
- ・アルミ缶の回収 (車椅子の寄贈)
- その他

領収書  
内務省福祉行政センター 贈  
贈品名: 車椅子(折込品) 1台  
ただし、福祉活動推進への要員の寄付として  
上記のとおり物品を授けました。  
贈付年月日: 2010年7月20日  
贈付者: 株式会社キョーリン 代表取締役社長 佐藤 隆夫

JOICFP Japanese Organization for International Cooperation in Family Planning  
本部: 東京都千代田区千代田 1-10-10 東武東上線千代田駅南口 10階 東武東上線千代田駅南口ビル  
Shinjuku-Kojima, Tokyo 100-0040 Japan  
Telephone: 03-3200-8970  
Facsimile: 03-3200-8976  
E-mail: joicfp@joicfp.org

株式会社キョーリン 贈中 2010年7月20日  
財団法人ジョイセフ (認定NPO法人) 支援 感謝状  
受贈品: 車椅子1台

寄贈に際する謝礼と受領のお知らせ  
寄贈品目: 使用済み切手

この度は、ジョイセフの収集がボランティアに協力いただきまして、誠にありがとうございます。皆様のご賛助と協力に感謝申し上げます。  
ジョイセフはボランティア活動と称される、世界中のお母さんと赤ちゃんの命を守る活動を推進しています。世界の貧困と疾病、日本人には想像がつかないことですが、世界では、今なお妊婦や子どもが原因で年間100万人以上の女性が命を落とされています。そのほか途上国の女性では、また妊婦と胎児による疾病と事故で、年間1千万人以上の女性が後遺症で苦しんでいます。途上国では妊婦の栄養不足、出産時の不安定な環境、後遺症ケアサービスの欠如、道路や交通機関などのインフラの欠乏、社会的な差別などが原因となっており、  
皆様よりご寄贈頂きました収入アイテムによる資金は、私どもジョイセフが開発途上で推進しております「マイクロクレジット」の活動資金に活用させていただきます。  
世界では、途上国の中でもっとも貧乏な層に占められています。  
ジョイセフは、途上国のお母さんたちを救済に努めており、皆様のお心遣いによって、支援が実現してまいります。  
今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

JOICFP Web site: <http://joicfp.org>

# 当社 EHS 活動の歩み

年 月	あ ゆ み	
	環境関係	労働安全衛生関係
1998年	生産部で環境活動方針をとりあげる	
1999年	ダイエット 30 作戦開始 野木工場 ISO14001 認証登録	
2000年	焼却炉全廃 行動憲章・社員行動指針の制定 岡谷工場 ISO14001 認証登録	
2001年	プロジェクター X 作戦開始 能代工場 ISO14001 認証登録	労働安全衛生マネジメントプログラム 導入検討
2002年	諏訪湖アダプトプログラム参加 栃木県保険衛生学会表彰 「環境への取り組み」 創薬研究所、研究センター ISO14001 審査登録に向け取り組み開始	3工場 OHSAS18001 審査登録に向け 取り組み開始
2003年	創薬研究所、研究センター BSI ジャパンによる審査受審 ISO14001 認証登録 営業部門、本社 ISO14001 認証登録に向け取り組み開始	3工場 BSI ジャパンによる審査受審 OHSAS18001 認証登録 創薬研究所、研究センター OHSAS18001 審査登録に向け取り組み開始 営業部門、本社 OHSAS18001 認証登録に向け取り組み開始
2004年	営業部門、本社を含めた全社統合 BSI ジャパンによる審査受審 全社で ISO14001 認証登録	本社、研究事業所、営業部門を含めた全社統合 BSI ジャパンによる審査受審 全社で OHSAS18001 認証登録
2005年	ISO14001・OHSAS18001 両システムの統合 2006年3月野木工場閉鎖（機能は全て能代工場に移管）	全社として BSI ジャパンによる審査受審 全社で ISO14001 認証更新、OHSAS18001 認証継続
2006年	ISO14001(2004年版)規格へ切替とあわせ認証継続及び OHSAS18001 認証更新	
2007年	グループ会社への ISO14001 認証取得支援開始	
2008年	グループ会社への ISO14001 認証取得支援・OHSAS18001 認証取得支援開始	
2009年	全社で ISO14001 認証継続、OHSAS18001 認証継続	

【 ISO14001（環境マネジメントシステム）認証登録証】



【 OHSAS18001（労働安全衛生マネジメントシステム）認証登録証】

